



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年8月14日

東

上場会社名 株式会社インターネットインフィニティ 上場取引所
 コード番号 6545 URL <https://iif.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 別宮圭一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 星野健治 (TEL) 03-6779-4777
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	886	10.3	58	—	60	—	37	—
2019年3月期第1四半期	803	0.6	△43	—	△43	—	△34	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	7.07	6.82
2019年3月期第1四半期	△6.63	—

(注) 2019年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	1,979	754	38.1
2019年3月期	1,906	816	42.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 754百万円 2019年3月期 816百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,502	4.2	170	84.4	186	79.4	120	87.2	22.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

業績予想の「1株当たり当期純利益」につきましては、当第1四半期累計期間における自己株式の取得による影響を考慮して算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年3月期1Q	5,413,371株	2019年3月期	5,413,371株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2020年3月期1Q	115,920株	2019年3月期	20株
------------	----------	----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年3月期1Q	5,374,449株	2019年3月期1Q	5,145,255株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用環境や所得水準の改善などを背景に、設備投資の増加や個人消費に持ち直しの動きが見られるなど緩やかな景気回復が続いた一方で、世界経済においては、米中貿易摩擦の激化や中国経済の減速、英国のEU離脱問題などによる下振れリスクが懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社の事業に関わる高齢社会に関連する市場は、高齢者の増加と共に年々拡大する傾向にあり、ヘルスケアサービスの需要はますます高まりつつあります。また、健康寿命の延伸や、社会保障費の増大に歯止めをかけることなどが喫緊の課題として認識されており、高齢者の健康維持・向上に重点をおいた短時間リハビリ型通所介護サービス(デイサービス)の需要は今後も高まることが予想されます。その一方、3年毎に介護報酬の改定が行われており、介護保険制度を安定的に持続させていくための取り組みが進められております。

このような状況の中、当社は「健康な未来」というコーポレートスローガンのもと、「創意革新と挑戦による、超高齢社会における課題解決」をミッションと位置づけ、短時間リハビリ型通所介護サービス(デイサービス)「レコードブック」店舗ネットワークの拡大及びケアマネジャー会員ネットワーク「ケアマネジメント・オンライン」を活用したサービスの拡大に注力いたしました。レコードブック事業の全国展開及び将来の事業拡大等を着実に加速させていくため、フランチャイズ本部機能を継続的に強化しているほか、社員の「働き方改革」等を推進することによって優秀な人材を確保するための取り組みを積極的に行っております。また、政府の介護離職ゼロに向けた取り組みを受けて、Webソリューション事業における仕事と介護の両立支援事業を引き続き積極展開するとともに、シルバーマーケティング支援については、メディカルソリューションの分野での本格展開を目指し、新サービスの開発、強化を進めております。

以上の結果、売上高は886,371千円(前年同四半期比10.3%増)、営業利益は58,781千円(前年同四半期は43,543千円の損失)、経常利益は60,099千円(前年同四半期は43,661千円の損失)、四半期純利益は37,998千円(前年同四半期は34,114千円の損失)となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりです。

(ヘルスケアソリューション事業)

レコードブック事業におきましては、当第1四半期累計期間において短時間リハビリ型通所介護サービス(デイサービス)「レコードブック」のフランチャイズが10ヵ所増加しております。その結果、直営店が27ヵ所、フランチャイズが127ヵ所となりました。

そのほか、名古屋鉄道株式会社との合弁会社である株式会社名鉄ライフサポートが愛知県を中心に展開する「名鉄レコードブック」は、当第1四半期会計期間末において16ヵ所となっております。

これにより、「レコードブック・ブランド」の店舗が合計で170店舗(前年同四半期末は113店舗)となりました。

これらの店舗増加や既存店舗の稼働率向上等に伴う収入の増加に加え、2018年4月からの介護報酬改定の影響を受けて減少していた顧客単価につきましても、前期下期より進めている新たな加算の取得により増加に転じるなど、売上高、営業利益ともにレコードブック事業全体として増加いたしました。

また、Webソリューション事業におきましても、本格展開に向け新サービスの開発を進めているメディカルソリューション分野での案件獲得が始まり、売上高は増加しております。

この結果、売上高は579,507千円(前年同四半期比21.2%増)、営業利益は105,343千円(前年同四半期比283.2%増)となりました。

(在宅サービス事業)

介護業界では人材不足により採用難が進んでおります。当社においても有資格者の減員などによるサービス提供量減少により売上高は減少いたしました。既存の人員で効率的な運営を行ったことにより、前年同四半期とほぼ同水準の利益を維持することができました。

この結果、売上高は306,864千円(前年同四半期比5.6%減)、営業利益は90,981千円(前年同四半期比0.8%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は1,149,576千円となり、前事業年度末に比べ37,262千円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金が27,092千円、売掛金が6,983千円増加したことによるものです。

固定資産は829,641千円となり、前事業年度末に比べ35,326千円増加いたしました。その主な要因は、「レコードブック」の店舗増加等に伴い建物(純額)28,379千円、投資その他の資産が12,745千円増加したことによるものです。

この結果、当第1四半期会計期間末における資産合計は1,979,217千円となり、前事業年度末に比べ72,589千円増加しました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は1,031,345千円となり、前事業年度末に比べ177,988千円増加いたしました。その主な要因は、短期借入金が90,000千円、その他に含まれる未払費用が75,652千円増加したことによるものです。

固定負債は193,552千円となり、前事業年度末に比べ43,437千円減少いたしました。その主な要因は、長期借入金が41,762千円減少したことによるものです。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は1,224,897千円となり、前事業年度末に比べ134,550千円増加しました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は754,319千円となり、前事業年度末に比べ61,961千円減少いたしました。その要因は、自己株式の取得による減少99,960千円と、四半期純利益を37,998千円計上したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2019年5月15日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。なお、業績予想値は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	429,944	457,036
売掛金	581,804	588,787
貯蔵品	15,575	24,069
その他	86,243	81,173
貸倒引当金	△1,254	△1,490
流動資産合計	1,112,313	1,149,576
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	440,225	468,605
その他(純額)	64,720	57,930
有形固定資産合計	504,945	526,535
無形固定資産	23,651	24,643
投資その他の資産	265,716	278,462
固定資産合計	794,314	829,641
資産合計	1,906,628	1,979,217
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,916	9,428
短期借入金	130,000	220,000
1年内返済予定の長期借入金	172,625	175,425
未払法人税等	3,987	21,126
預り金	237,624	294,118
賞与引当金	72,754	15,758
その他	226,449	295,488
流動負債合計	853,357	1,031,345
固定負債		
長期借入金	141,111	99,349
資産除去債務	39,372	41,268
その他	56,506	52,934
固定負債合計	236,989	193,552
負債合計	1,090,347	1,224,897
純資産の部		
株主資本		
資本金	250,992	250,992
資本剰余金	235,992	235,992
利益剰余金	329,360	367,358
自己株式	△63	△100,023
株主資本合計	816,281	754,319
純資産合計	816,281	754,319
負債純資産合計	1,906,628	1,979,217

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	803,334	886,371
売上原価	560,618	578,789
売上総利益	242,715	307,581
販売費及び一般管理費	286,259	248,800
営業利益又は営業損失(△)	△43,543	58,781
営業外収益		
事業譲渡益	1,414	1,414
固定資産売却益	—	1,404
その他	768	1,413
営業外収益合計	2,183	4,232
営業外費用		
支払利息	2,244	2,614
その他	56	299
営業外費用合計	2,300	2,914
経常利益又は経常損失(△)	△43,661	60,099
特別損失		
減損損失	—	2,655
特別損失合計	—	2,655
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△43,661	57,443
法人税、住民税及び事業税	1,597	25,142
法人税等調整額	△11,144	△5,697
法人税等合計	△9,547	19,445
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△34,114	37,998

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年5月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式115,900株の取得を行いました。この結果、当第1四半期累計期間において自己株式が99,960千円増加し、当第1四半期会計期間末において自己株式が100,023千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2
	ヘルスケアソリューション事業	在宅サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	478,176	325,157	803,334	—	803,334
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	478,176	325,157	803,334	—	803,334
セグメント利益	27,490	91,678	119,168	△162,712	△43,543

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△162,712千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益計算書 計上額 (注) 2
	ヘルスケアソリューション事業	在宅サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	579,507	306,864	886,371	—	886,371
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	579,507	306,864	886,371	—	886,371
セグメント利益	105,343	90,981	196,325	△137,544	58,781

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△137,544千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。